

# 前回までの報告について

令和5年12月  
厚生労働省

# 前回までの報告について

## ① 原爆由来の放射性物質を確認する課題（気象・土壌WG）

### 気象シミュレーション

- 原爆雲、衝撃塵、街区火災の3つに気象場を加えた構成要素に分けてモデルを構築。これらの個々のモデルについて試験シミュレーションを実施し、課題や改善点などの洗い出しを実施。
- 個別シミュレーションの実施と改善を図るなかで、構築した各モデルを精緻化し、原爆投下時の気象シミュレーションを可能な限り構築する。

### 土壌調査

- 黒い雨の報告がある地域をできる限り包含した100区域について、30cmの深さまで層別化（1cm幅）し土壌を採取。
- うち10区域について、放射能等を測定（一部試料では、原爆由来の熔融微粒子や微粒炭素を含む）。これにより解析方法の有効性や限界、今後の効率的な調査方法が明らかになった。
- 年度内に100区画に関して放射能等を測定・分析することにより、区画毎の土壌に残留する原爆由来の放射性物質の程度について可能な限り明らかにする。

### 原爆投下時の気象状況等に関する文献調査、祈念館における体験記調査等

- 米国公文書館、トルーマン大統領図書館等のオンライン検索の上、得られた候補文献のうち、入手可能だった文献を気象・土壌WGで精査。
- 体験記調査は、雨以外の飛散物の記載の有無を追加で確認。
- 米国公文書館等が開館後、現地調査が可能であれば実施し、実際の文献入手・翻訳等を行い、精査を行う。

## ② 健康影響が生じているか確認する課題（健康影響WG）

### 疾患罹患状況等調査

- 健康影響WGが主体となって、広島県市の協力を得つつ、実現可能性や対象者への負担も含めて検討し、調査計画を策定。
- 策定された調査計画に基づき、年内には調査が終了、年度内にはデータ解析・調査報告できるよう調査実施する。

### 広島赤十字・原爆病院におけるカルテ調査

- 被爆者約500症例のカルテの記載を精査し、被爆直後の症状や被爆40年以降の疾病状況の比較を実施したが、雨に曝露した記載の有無による健康状況の違いは報告されなかった。
- 本調査は令和3年度で終了。